

風土記の丘の花だより²⁸⁴

今、そしてこれから見られる植物(2025年8月2日)

前回紹介しましたヒメヤブランですが、花だよりの発行日には花がほぼなくなっていて、ご覧になれなかったことと思います。どうもすみませんでした。花はもう少しの期間咲いているだろうという甘い見通しを反省しております。さて、毎日こう暑いと、咲いている花も少なく、今回もやっと4つ探しました。では紹介しましょう。



「臭い木」という意味の名前は不名誉ですが、そのクサギに涼しげな花が咲き始めました。万葉植物園入り口手前の株にはどうやら何かの虫が入ったとみえて、樹勢が衰えてしまい、花は咲きそうにありません。周辺の何本かの小さな株には花が咲きましたが、花数は多くありません。今はシソ科の植物に分類されていますが、古い図鑑などではクマツヅラ科になっていると思います。花を手にとれたら嗅いでみてください。葉の悪臭とはまた違った香りがしますよ。



幹がツルツルで、お猿さんでも手が滑って登れない木にも花が咲いています。サルスベリです。それにしても先人は、面白い名前をつけたものですね。花が固まって咲くので、分かりにくいですが、一つひとつの花の花びらは6枚で、フリルのように波打っています。中国から江戸時代頃に渡来したといわれています。写真は紅色ですが、白やピンク色などいろいろな品種があります。漢字では「百日紅」と書きますが、そんなに花期が長いのでしょうか。花の少ない真夏には、貴重な花ですね。ミソハギ科の花です。



これも真夏の花、キョウチクトウです。上のサルスベリ同様、江戸時代にインドあたりから渡来したそうです。それから多くの品種が作り出され、白や淡いピンク色などいろいろな色の花が見られます。また、大気汚染などの公害にも強く、工場の周りや緑地などにもよく植えられているので、車で走っていてもよく見かけます。でも、有毒植物で、植物全体に毒成分を含みます。口にすることはもちろん、切り口の汁に触れることも避けてください。



4つ目はミョウガです。そう麺の薬味などに使います。今、ちょうど花ざかりの時期です。薄黄色の儚そうな花ですね。でも、一説によると花の咲く前がおいしいのだそうです。このミョウガは自生しているものではありません。風土記の丘が栽培しているものです。にもかかわらず、マナーを守れず、茎を踏み倒して採って行く方が後を絶たず困っています。こんなものスーパーで買ってもそう高いものではないはずです。みんなが気持ちよく鑑賞できるといいですね。 松下